



Megaport AWS Direct Connect で 使用して Salesforce Hyperforce に接続する

AWS 規範ガイドンス



AWS 規範ガイド: Megaport AWS Direct Connect でを使用して Salesforce Hyperforce に接続する

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

序章	1
ソリューションのコンポーネント	2
Direct Connect	2
ホスト接続	2
パブリック仮想インターフェイス	2
Salesforce	3
Hyperforce	3
Salesforce Express Connect (SEC)	3
メガポート	4
メガポートポート	4
メガポート仮想エッジ (MVE)	5
Megaport クラウドルーター (MCR)	5
ユースケース	6
ユースケース: ブランチオフィス	6
要件	7
VXC を使用した Megaport ポートの設定	7
ネットワークデバイスの設定	7
の設定 Direct Connect	8
SEC を使用した Megaport ポートの設定	9
Salesforce Hyperforce の設定	9
ユースケース: VPN 接続ワークフォース	10
要件	10
VXC を使用した Megaport MVE の設定	11
VNF アプリケーションの設定	11
ルートフィルターの設定	11
の設定 Direct Connect	12
SEC を使用した Megaport MVE の設定	13
Salesforce Hyperforce の設定	13
ユースケース: マルチクラウド仮想デスクトップインフラストラクチャ	13
要件	14
VXC を使用した Megaport MCR の設定	14
の設定 Direct Connect	15
SEC を使用した Megaport MCR の設定	16
Salesforce Hyperforce を設定する	16

料金	17
リソース	18
ドキュメント履歴	19
.....	xx

Megaport AWS Direct Connect を使用して Salesforce Hyperforce に接続する

Bennett Borofka と Kranthi Pullagurla (AWS)、Abhiram Gajjala (Salesforce)、Kevin Dashboarder (Megaport)

2024 年 8 月 ([ドキュメント履歴](#))

多くの AWS ユーザーには、クラウドとオンプレミスのロケーションにまたがるハイブリッドワークロードがあります。これらの環境間でプライベートで信頼性の高いネットワーク接続を適切に提供するために、さまざまなオプションから選択して、ビジネス価値とコストの最適化を確保できます。ブランチオフィス、エンタープライズデータセンター、VPN 接続ワークフォースを持つユーザーには、で実行されている Salesforce Hyperforce へのアクセスを有効にするための固有の要件があります AWS。このガイドでは、と Megaport ソフトウェア定義ネットワーク (SDN) プラットフォームを使用して、Salesforce Hyperforce Direct Connect と AWS ユーザーが Hyperforce へのプライベートで信頼性の高い接続を設定するのに役立つユースケースについて説明します。

[Salesforce Hyperforce](#) は、などのクラウドプロバイダーで動作するように構築された次世代の Salesforce インフラストラクチャアーキテクチャです AWS。Hyperforce を使用すると、強化されたコンプライアンス、セキュリティ、俊敏性、スケーラビリティ、プライバシーを活用できます。Hyperforce には、オンプレミスの場所、その他のクラウドプロバイダー、AWS アカウントまたはその他のクラウドプロバイダーから Hyperforce へのプライベートで信頼性の高いネットワーク接続を確立するための複数のオプションが用意されています。

[Direct Connect](#) は、インターネットをバイパスしてブランチオフィスとデータセンターをリンクするクラウドサービスです AWS。これは、ネットワークトラフィックがバックボーンネットワークに AWS 残り、パブリックインターネットを経由しない場所から Hyperforce への最短パスを提供します。

[Megaport](#) は SDN プラットフォームおよび Direct Connect パートナーです。Megaport は、AWS やその他のクラウドプロバイダーへの高速で信頼性の高い接続を必要とするユーザー向けに、さまざまなネットワーク接続オプションを提供します。

このガイドは、ネットワーク、クラウドインフラストラクチャ、Salesforce Hyperforce の実務者、アーキテクト、管理者、オペレーターを対象としています。

ソリューションのコンポーネント

Direct Connect では、への独自の[専用接続](#)を作成するか AWS、Direct Connect パートナーと協力して[ホスト接続](#)を作成する必要があります。この記事では、Megaport を Direct Connect パートナーとして使用して、Salesforce Hyperforce に接続するためのハイブリッドおよび複数のユースケースを促進するためのガイダンスを提供します。

Direct Connect

Direct Connect は、オンプレミスのデータセンターと の間にプライベートな専用ネットワーク接続を確立します AWS。この直接リンクは、組織がパブリックインターネットをバイパスし、AWS リソースとの信頼性の高いプライベート通信を提供するのに役立ちます。

Hyperforce は AWS インフラストラクチャ上で実行されますが、を使用して Direct Connect アクセスするには、接続の請求と設定 AWS アカウント のために を管理する必要があります。Direct Connect を使用した Salesforce 管理の Hyperforce への接続 AWS アカウント はサポートされていません。

ホスト接続

[ホスト接続](#)は、Direct Connect パートナーがユーザーに代わってプロビジョニングする物理イーサネット接続です。このガイドで説明するユースケースとアーキテクチャでは、Direct Connect パートナーである [Megaport](#) とのホスト接続を使用します。ホスト接続は複数の増分で 50 Mbps ~ 25 Gbps の帯域幅範囲を提供しますが、専用接続は 1 Gbps、10 Gbps、100 Gbps の容量で提供されます。Direct Connect 帯域幅とコストの詳細については、「の[Direct Connect 料金](#)」を参照してください。

パブリック仮想インターフェイス

Hyperforce アーキテクチャでは、オンプレミスおよびマルチクラウドの場所から AWS リソースのパブリック IP アドレススペースにアクセスする必要があります。パブリック仮想インターフェイス (VIF) は、リモートロケーションをデプロイされたパブリック IP AWS のサービス とパブリック IPs に接続するために使用されます AWS。プライベート VIF を使用した Hyperforce へのアクセスはサポートされていません。

❗ 注意事項

- パブリック VIF を使用するには、一意のパブリック IPv4 アドレスを使用する必要があります。独自の IPv4 CIDR を提供するか、[AWS サポート](#)に /31 CIDR をリクエストする必要があります。詳細については、ドキュメントの[仮想インターフェイスの前提条件](#)を参照してください。Direct Connect
- パブリック VIF を使用してオンプレミス環境またはマルチクラウド環境 AWS から に接続すると、トラフィックがパブリックプレフィックスから AWS ユーザーにルーティングされる方法が変わります。プレフィックスフィルター (ルートマップ) を使用して、受け入れられる Amazon プレフィックスが Hyperforce インフラストラクチャおよびその他の必要な AWS リソースに制限されていることを確認することをお勧めします。詳細については、Direct Connect ドキュメントの[パブリック仮想インターフェイスプレフィックスアドバタイズルール](#)を参照してください。
- によってアドバタイズされるプレフィックスは、接続のネットワーク境界を超えてアドバタイズ Direct Connect してはいけません。たとえば、これらのプレフィックスは、任意のパブリックインターネットルーティングテーブルに含めることはできません。詳細については、ドキュメントの Direct Connect [パブリック仮想インターフェイスルーティングポリシー](#)を参照してください。

Salesforce

Salesforce は、販売、サービス、マーケティング、分析、顧客との接続を支援するように設計された顧客関係管理 (CRM) プラットフォームです。

Hyperforce

[Salesforce Hyperforce](#) は、パブリッククラウド用に構築された次世代の Salesforce インフラストラクチャアーキテクチャです。AWS インフラストラクチャを使用することで、スケーラビリティ、柔軟性、俊敏性が向上します。これは、パブリッククラウドインフラストラクチャで Salesforce を実行する最も高速で簡単な方法です。

Salesforce Express Connect (SEC)

[Salesforce Express Connect \(SEC\)](#) を使用すると、ユーザーから Salesforce が運営するデータセンターへのプライベートで信頼性の高い接続が可能になります。Hyperforce へのプライベート接続を確保するには、現在、と組み合わせて SEC 接続が必要です Direct Connect。

注意事項

- Salesforce マネージドインフラストラクチャでは、限られた数の Salesforce サービスが引き続き実行されます。Salesforce が管理するインフラストラクチャと Hyperforce のすべてのサービスへの接続を維持するには、Salesforce へのプライベートネットワークアクセスを必要とするユーザーが引き続き SEC を実行する必要があります Direct Connect。
- Salesforce と AWS は SEC を販売しません。Salesforce が管理するインフラストラクチャへのプライベートネットワーク接続が必要な場合は、SEC 接続が必要です。この記事では、[Megaport を使用して Salesforce への新しい SEC 接続](#)を確立する方法について説明します。
- SEC は、Salesforce が管理するインフラストラクチャと Hyperforce 間のデータ移行には使用されません。Hyperforce に移行する場合、Salesforce はプライベートバックボーン上の組織内のデータ移行を容易にします。SEC は、ユーザーによる Salesforce への継続的なプライベート接続に必要です。

メガポート

[Megaport](#) は、スケーラブル AWS リージョン でプライベート、オンデマンドの方法で、へのハイブリッドクラウド接続を簡素化および高速化します。Megaport はこの接続エコシステムのファシリテーターとして機能し、を含むクラウドサービスへの接続プロセスを簡素化および最適化する SDN ソリューションを提供します AWS クラウド。メガポート接続は仮想クロスコネクト (VXCsと呼ばれます。VXC はレイヤー 2 イーサネット回路で、メガポートネットワーク上の任意の場所間でプライベートで柔軟、オンデマンドの接続を提供します。Megaport ネットワークにアクセスするには、まずポート、Megaport Virtual Edge (MVE)、または Megaport Cloud Router (MCR) を作成する必要があります。これについては、次のセクションで説明します。

メガポートポート

[Megaport Port](#) は、ネットワークと Megaport ネットワークの間に network-to-network Interface (NNI) を作成する高速イーサネットインターフェイスです。最大 100 個の VXCs、それぞれが一意的 VLAN として表示されます。ポートのプロビジョニングプロセスにより、Megaport インターフェイスが有効になり、データセンターオペレーターが機器から新しいポートへの物理的なクロスコネクトを確立する手順が記載された認可書 (LOA) が生成されます。

Note

ネットワークデバイスには、10GBASE-LR (シングルモード光ファイバの二重 [SMOF]) または 100G-LR4 (SMOF の二重) 光トランシーバーを備えた 10 または 100 Gbps インターフェイスが必要です。

メガポート仮想エッジ (MVE)

[Megaport Virtual Edge \(MVE\)](#) は、Megaport のグローバル SDN のエッジでネットワークサービスに仮想インフラストラクチャを提供するネットワーク機能仮想化 (NFV) プラットフォームです。

MVE を使用して、物理データセンターのプレゼンスやハードウェアなしで仮想ネットワークスタック (またはプレゼンスポイント) をデプロイできます。MVE は世界中の 27 の大都市圏で利用でき、Direct Connect ピアリングロケーション (NNIs)。MVE は、Aruba、Cisco、Fortinet、Palo Alto Networks、" Networks、VMware などのベンダーのサードパーティー VNF アプライアンスをサポートしています。

Note

Megaport はサードパーティーライセンスを販売しておらず、Bring Your Own License (BYOL) モデルを使用する必要があります。

Megaport クラウドルーター (MCR)

[Megaport Cloud Router \(MCR\)](#) は、他のクラウドプロバイダーを含む、Megaport ネットワーク上のエンドポイント間のレイヤー 2 とレイヤー 3 の直接ネットワークを可能にするマネージド仮想ルーターサービスです。MCR は、データセンターに物理的に存在することなく、異なるクラウド環境間でトラフィックをルーティングするスタンドアロンサービスとしてデプロイできます。また、ポートに接続して、関連するトラフィックを物理的な場所にルーティングすることもできます。MCR は Megaport Portal を通じて管理され、双方向転送検出 (BFD)、マルチエグジット識別子 (MED)、自律システム番号 (ASN)、NAT など、静的および動的ボーダーゲートウェイプロトコル (BGP) ルーティング関数の両方を設定します。詳細については、Megaport ドキュメントの「[BGP の詳細設定の設定](#)」を参照してください。

ユースケース

以下のセクションのユースケースでは、ユーザーが Hyperforce へのプライベートで信頼性の高い接続を実現できるようにする方法の例を示します。

- [ブランチオフィス](#)
- [VPN 接続ワークフォース](#)
- [マルチクラウド仮想デスクトップインフラストラクチャ](#)

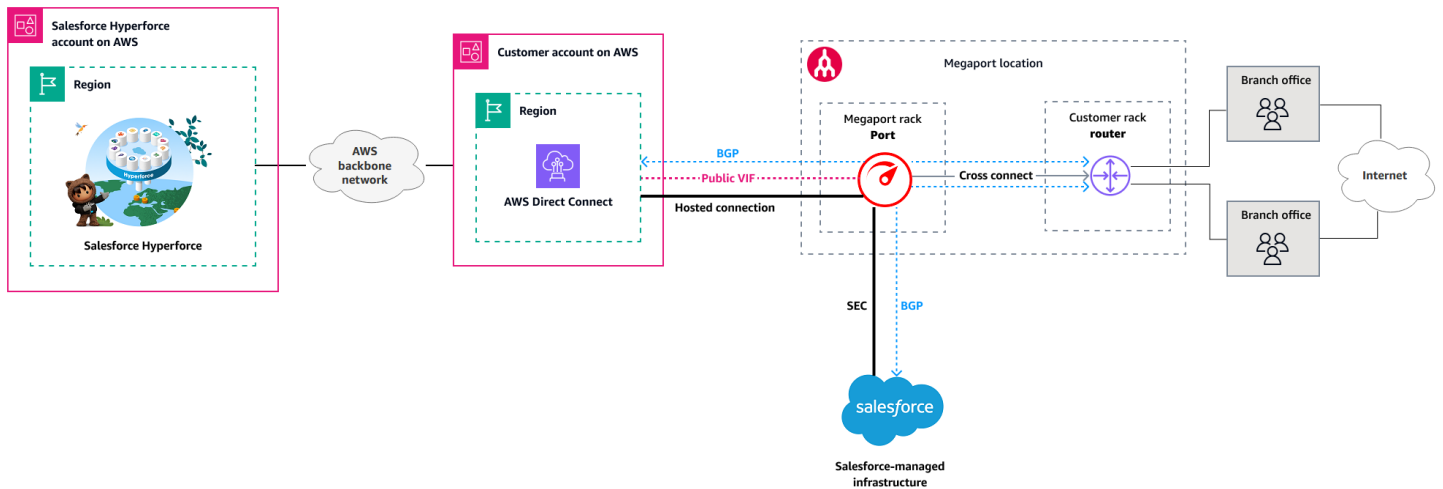
主な考慮事項

- Hyperforce は、プライベート接続とパブリック接続の両方に使用できます。
- 説明されているユースケースの任意の組み合わせを使用できます。
- Salesforce が管理するデータセンターインフラストラクチャから移行する新しい Salesforce ユーザーとユーザーは、Hyperforce を使用できます。ユースケースは両方のシナリオを対象としています。
- Salesforce が管理するデータセンターインスタンスから Hyperforce へのデータの移行は、Salesforce によってバックグラウンドで管理され、これらのユースケースで説明されているネットワークアーキテクチャを使用しません。
- Hyperforce へのユーザーアプリケーションログインの一部の側面では、Salesforce が管理するデータセンターへのネットワーク接続が依然として必要です。このため、完全プライベート接続が必要な場合は、で SEC を使用する必要があります Direct Connect。

ユースケース: ブランチオフィス

このユースケースでは、1 つの Megaport ロケーションに物理ルーターがあり、それをオンランプとして使用するシナリオについて説明します Direct Connect。このシナリオでは、プライベート回路を介してこの場所に 1 つ以上のブランチオフィスが接続されています。

で Megaport Port を使用すると Direct Connect、ブランチオフィスで働くユーザーは Salesforce Hyperforce にプライベートに接続できます。ブランチオフィスは、1 つのオフィス、または大都市圏ネットワーク (MAN) 間で相互接続されたオフィスのクラスターで構成されます。Megaport ロケーション Direct Connect を使用してオフィスを にランプアップします。次の図は、このユースケースのアーキテクチャを示しています。



要件

- ユーザーは、プライベートネットワーク接続を介して Salesforce にアクセスします。
- ユーザーは主に、Megaport 対応の場所へのプライベート接続があるブランチオフィスで作業します。
- Megaport との Direct Connect ホスト接続を管理する AWS アカウント を所有している。
- Megaport のルーターとのクロスコネクトを容易にする物理ルーターが Megaport の場所にデプロイされている。

VXC を使用した Megaport ポートの設定

Megaport ポートは VXC で設定され、プライベート Layer 2 ネットワークセグメントを提供します AWS。Direct Connect 接続はホスト接続としてプロビジョニングされ、パブリック VIF にアタッチされます。step-by-stepの手順については、以下の Megaport ドキュメントを参照してください。

- [ポートの作成](#)
- [AWS ホスト接続の設定と維持](#)

ネットワークデバイスの設定

ラック内の Megaport の場所にデプロイされたネットワークデバイスは、を介した Hyperforce インスタンスへの接続をサポートするように設定されています Direct Connect。これらのデバイスには、ルーター、スイッチ、ファイアウォール、または複数のデバイスのネットワークスタックの組み合わせ

セが含まれる場合があります。ベンダーとモデルタイプは要件に応じてオプションです。ネットワーク管理者と協力してこれらのデバイスを設定することをお勧めします。

Megaport ラックへの物理的なクロスコネクトを確立するために使用されるデバイスは、レイヤー 2 の隣接を確立するために 802.1Q VLAN タグ付けをサポートしている必要があります。その後、BGP を使用して、ルーターと AWS パブリック VIF の間にレイヤー 3 の隣接関係が確立されます。

注意事項

- ルーターから アドバタイズされる BGP プレフィックス AWS は、パブリック VIF を作成する AWS マネジメントコンソール ときに で設定されます。
- によってアドバタイズされるプレフィックスは、接続のネットワーク境界を超えてアドバタイズ Direct Connect してはいけません。たとえば、これらのプレフィックスは、任意のパブリックインターネットルーティングテーブルに含めることはできません。詳細については、ドキュメントの Direct Connect [「パブリック仮想インターフェイスルーティングポリシー」](#) を参照してください。

の設定 Direct Connect

ホスト接続を受け入れる

で AWS アカウント、以前にホスト接続として作成された VXC を受け入れます。手順については、[Direct Connect ドキュメント](#) を参照してください。

パブリック VIF を作成する

アカウントで、Megaport から承諾した接続でパブリック VIF をプロビジョニングします。この VIF を作成する前に、以下を取得する必要があります。

- Megaport ロケーションにデプロイされるルーターの BGP ASN。
- ピアリング用のパブリック IPv4 アドレス (通常は /31 CIDR)。これらを所有することも、リクエストすることもできます AWS サポート。詳細については、ドキュメントの「仮想インターフェイスの前提条件」セクションの「ピア IP アドレス Direct Connect」を参照してください。 <https://docs.aws.amazon.com/directconnect/latest/UserGuide/WorkingWithVirtualInterfaces.html#vif-prerequisites>

パブリック VIF を作成するには、[Direct Connect ドキュメント](#) の手順に従ってください。

パブリック VIF を作成したら、ピアリング状態が利用可能になるように、BGP 認証キーが BGP ピアの両端と一致することを確認する必要があります。

Note

パブリック VIF を使用してオンプレミス環境 AWS からに接続すると、トラフィックが AWS パブリックプレフィックスからユーザーにルーティングされる方法が変わります。プレフィックスフィルター (ルートマップ) を使用して、受け入れられる Amazon プレフィックスが Hyperforce インフラストラクチャやその他の必要な AWS リソースに制限されていることを確認することをお勧めします。詳細については、ドキュメントの Direct Connect [「パブリック仮想インターフェイスプレフィックスアダプタイズルール」](#) を参照してください。

SEC を使用した Megaport ポートの設定

また、SEC VXC を使用して Megaport ポートをプロビジョニングすることもできます。SEC VXC は、Salesforce が管理するデータセンターへのプライベート接続用の Layer 2 ネットワーク要素を提供します。SEC では、専用のプライベート接続を使用して Salesforce アプリケーションとサービスに直接アクセスできます。SEC はレイヤー 3 ルーティングサービスとして配信されます。パブリック IPs、Salesforce ルートを受信するには BGP を実行する必要があります。Megaport は、Salesforce ピアリングごとに /31 パブリック IP 範囲を割り当てます。

Note

SEC では、次の 2 つの IP アドレス指定オプションから選択できます。

- NAT 送信元 LAN トラフィックは、Megaport が提供する /31 パブリック IP スペースを使用します。
- 独自のパブリック IP アドレス空間を Salesforce にアダプタイズします。(Salesforce は IP アドレス空間の [RFC1918](#) ブロックを受け入れません)。

step-by-step の手順については、Megaport ドキュメントの [「Salesforce Express Connect への接続」](#) を参照してください。

Salesforce Hyperforce の設定

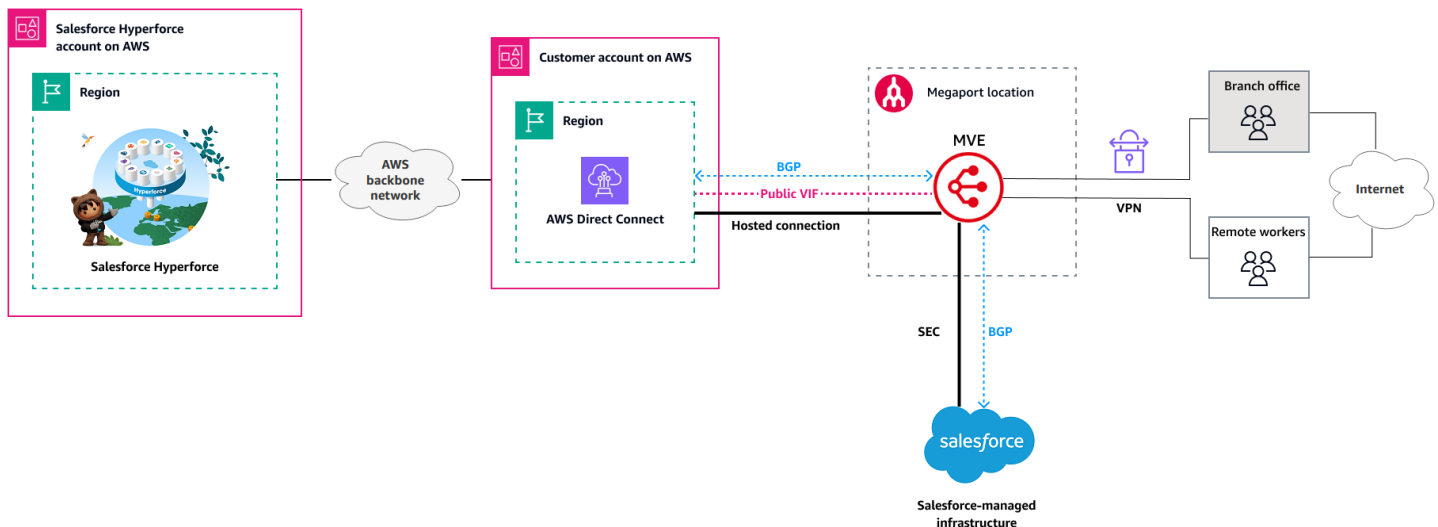
企業ネットワークから Salesforce へのインバウンド接続を有効にするには、セキュリティ対策として Hyperforce へのインバウンドアクセスを設定する必要があります。 [必要なドメインを許可する](#) に

は、Salesforce ドキュメントの「[Salesforce Classic で Salesforce コンソールのドメインを許可する](#)」の手順に従います。IP アドレスは使用しないでください。

ユースケース: VPN 接続ワークフロー

このユースケースでは、Megaport ロケーションの仮想 VPN コンセントレータをオンランプとして使用するシナリオについて説明します Direct Connect。このシナリオでは、VPN コンセントレータに接続する site-to-site を持つリモートブランチオフィスまたはワーカーがいます。VPNs

サードパーティーの仮想ファイアウォールで Megaport MVE を使用し、リモートワーカーに Salesforce Hyperforce へのプライベート接続 Direct Connect を提供します。リモートワーカーは、ブランチオフィスのインターネットに接続されたルーターまたはデバイスで実行されている VPN クライアントから VPN コンセントレータに接続します。その後、リモートワーカーは、Megaport の場所 Direct Connect を使用して にランプします。



要件

- リモートワーカーは、プライベートネットワーク接続を介して Salesforce にアクセスします。
- リモートワーカーまたはブランチオフィスのユーザーは、インターネット経由で Megaport 対応の場所への site-to-site VPN 接続が可能です。
- Megaport との Direct Connect ホスト接続を管理する AWS アカウント を所有している。

VXC を使用した Megaport MVE の設定

VXC で設定された Megaport MVE は、プライベート Layer 2 ネットワークセグメントを提供します AWS。MVE は仮想ソリューションであり、ポートは必要ありません。ただし、デプロイするサードパーティーの仮想ネットワークアプライアンスを指定する必要があります。VXC のデプロイプロセスと機能は、ポート、MVE、MCR のいずれを使用する場合でも同じです。はホスト接続としてプロビジョニングし、パブリック VIF にアタッチ Direct Connect する必要があります。

概要と step-by-step 手順については、以下の Megaport ドキュメントを参照してください。

- [MVE の紹介](#)
- [AWS ホスト接続の設定と維持](#)

VNF アプリケーションの設定

MVE は、Aruba、Cisco、Fortinet、Palo Alto Networks、" Networks、VMware などのベンダーのサードパーティー仮想ネットワーク機能 (VNF) アプライアンスをサポートしています。MVE のルーティング、セキュリティ、SSL VPN 関数処理するベンダーを選択できます。MVE 統合パートナーの完全なリストについては、[Megaport ドキュメント](#)を参照してください。

例えば、このユースケースでは、Megaport MVE がリージョンのブランチオフィスや SSL VPN 接続を持つリモートユーザーからの VPN/SD-WAN 接続をサポートする高レベルのアーキテクチャについて説明します。この MVE は とピア接続 AWS し、これらの接続を Hyperforce にプライベートにルーティングします Direct Connect。

このアーキテクチャの主な要素は次のとおりです。

- 関連する Hyperforce インスタンスの AWS プレフィックスを制限するルートフィルター
- Hyperforce 完全修飾ドメイン名 (FQDN) と IP アドレス範囲に基づく SSL VPN ポリシー
- が直面する単一のパブリック IP アドレスの背後にある Hyperforce ユーザー向けの NAT ポリシー AWS

ルートフィルターの設定

VNF が AWS パブリック VIF との BGP ピアリングを確立すると、ルートテーブルにすべての AWS パブリックサービスと Hyperforce のプレフィックスが入力されます。IP リストまたは BGP コミュニティタグを使用してルートフィルタリングを適用できます。 の Hyperforce インスタンスの範囲を含むプレフィックスのルートマップを設定することをお勧めします AWS リージョン。

i 注記:

- ルーターから アドバタイズされる BGP プレフィックス AWS は、パブリック VIF を作成する AWS マネジメントコンソール ときに で設定されます。
- によってアドバタイズされるプレフィックスは、接続のネットワーク境界を超えてアドバタイズ Direct Connect してはいけません。たとえば、これらのプレフィックスは、任意のパブリックインターネットルーティングテーブルに含めることはできません。詳細については、ドキュメントの Direct Connect [「パブリック仮想インターフェイスルーティングポリシー」](#) を参照してください。

の設定 Direct Connect

ホスト接続を受け入れる

で AWS アカウント、以前にホスト接続として作成された VXC を受け入れます。手順については、[Direct Connect ドキュメント](#) を参照してください。

パブリック VIF を作成する

アカウントで、Megaport から承諾した接続でパブリック VIF をプロビジョニングします。この VIF を作成する前に、以下を取得する必要があります。

- VNF アプライアンスの BGP ASN。
- ピアリング用のパブリック IPv4 アドレス (通常は /31 CIDR)。これらを所有することも、リクエストすることもできます サポート。詳細については、ドキュメントの「仮想インターフェイスの前提条件」セクションの「ピア IP アドレス Direct Connect」を参照してください。 <https://docs.aws.amazon.com/directconnect/latest/UserGuide/WorkingWithVirtualInterfaces.html#vif-prerequisites>

パブリック VIF を作成するには、[Direct Connect ドキュメント](#) の手順に従ってください。

パブリック VIF を作成したら、ピアリング状態が利用可能になるように、BGP 認証キーが BGP ピアの両端と一致することを確認する必要があります。

Note

パブリック VIF を使用してオンプレミス環境 AWS から に接続すると、トラフィックのオンプレミスロケーションへのルーティング方法が変わります AWS。プレフィックスフィルター (ルートマップ) を使用して、受け入れられる Amazon プレフィックスが Hyperforce インフラストラクチャやその他の必要な AWS リソースに制限されていることを確認することをお勧めします。詳細については、ドキュメントの Direct Connect [「パブリック仮想インターフェイスプレフィックスアドバタイズルール」](#) を参照してください。

SEC を使用した Megaport MVE の設定

場合によっては、Hyperforce ログインリクエストは Salesforce が管理するデータセンターにリダイレクトされます。このトラフィックをプライベートネットワークに保持するには、SEC を使用して Megaport VXC を Salesforce に追加できます。Salesforce ログイン FQDN を使用して、ルールで VNF セキュリティポリシーを設定できます。これは、このガイドで前述した Direct Connect アーキテクチャと似ています。

step-by-stepの手順については、Megaport ドキュメントの [「Salesforce Express Connect への接続」](#) を参照してください。

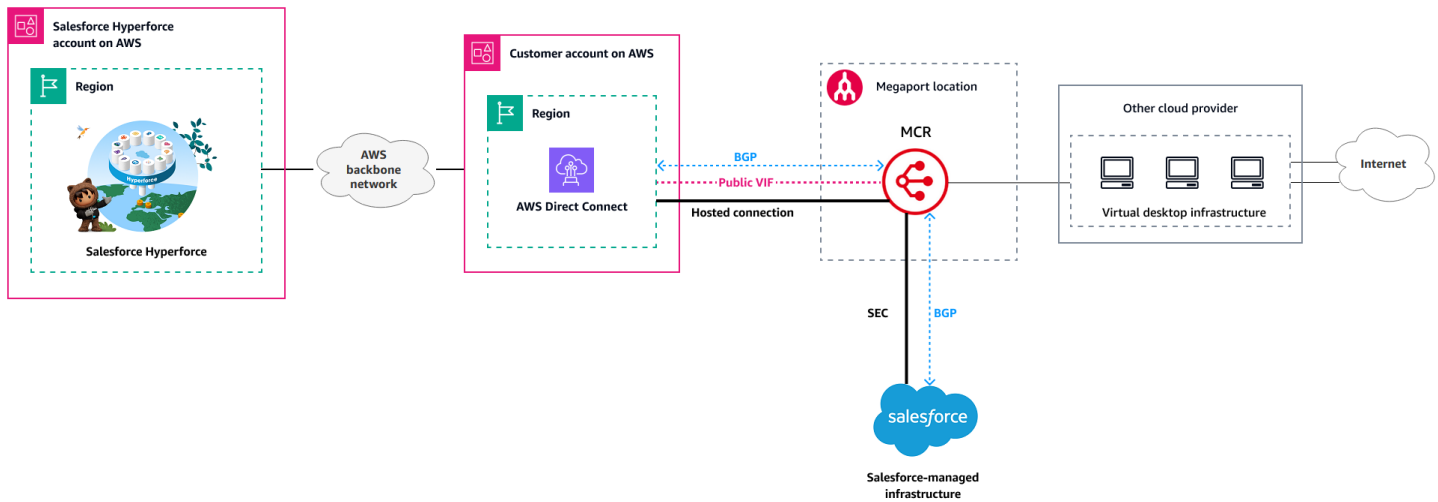
Salesforce Hyperforce の設定

企業ネットワークから Salesforce へのインバウンド接続を有効にするには、セキュリティ対策として Hyperforce へのインバウンドアクセスを設定する必要があります。 [必要なドメインを許可する](#) には、Salesforce ドキュメントの [「Salesforce Classic で Salesforce コンソールのドメインを許可する」](#) の手順に従います。IP アドレスは使用しないでください。

ユースケース: マルチクラウド仮想デスクトップインフラストラクチャ

このユースケースでは、Megaport へのプライベート接続を持ち、へのオンランプとして使用される別のクラウドプロバイダーで仮想デスクトップインフラストラクチャ (VDI) が実行されているシナリオについて説明します。Direct Connect

で Megaport MCR を使用すると Direct Connect、VDI ユーザーは Salesforce Hyperforce にプライベートに接続できます。VDI ユーザーは毎日の作業にデスクトップを使用し、VDI は Megaport の場所 Direct Connect を使用して にオンランプを提供します。



要件

- ユーザーは、プライベートネットワーク接続を介して Salesforce にアクセスします。
- ユーザーは VDI を使用します。
- VDI は代替クラウドプロバイダーで実行され、Megaport へのプライベート接続が確立されています。
- Megaport との Direct Connect ホスト接続を管理する AWS アカウント を所有している。

VXC を使用した Megaport MCR の設定

step-by-stepの手順については、以下の Megaport ドキュメントを参照してください。

- [MCR の作成](#)
- [への MCR 接続の作成 AWS](#)

注意事項

- ルーターから アドバタイズされる BGP プレフィックス AWS は、パブリック VIF を作成する AWS マネジメントコンソール ときに で設定されます。
- によってアドバタイズされるプレフィックスは、接続のネットワーク境界を超えてアドバタイズ Direct Connect してはいけません。たとえば、これらのプレフィックスは、任意のパブリックインターネットルーティングテーブルに含めることはできません。詳細につい

ては、ドキュメントの Direct Connect [「パブリック仮想インターフェイスルーティングポリシー」](#) を参照してください。

の設定 Direct Connect

ホスト接続を受け入れる

で AWS アカウント、ホスト接続として以前に作成した VXC を受け入れます。手順については、[Direct Connect ドキュメント](#) を参照してください。

パブリック VIF を作成する

アカウントで、Megaport から承諾した接続でパブリック VIF をプロビジョニングします。この VIF を作成する前に、以下を取得する必要があります。

- MCR の BGP ASN。
- ピアリング用のパブリック IPv4 アドレス (通常は /31 CIDR)。これらを所有することも、リクエストすることもできます サポート。詳細については、ドキュメントの「仮想インターフェイスの前提条件」セクションの「ピア IP アドレス Direct Connect」を参照してください。 <https://docs.aws.amazon.com/directconnect/latest/UserGuide/WorkingWithVirtualInterfaces.html#vif-prerequisites>

パブリック VIF を作成するには、[Direct Connect ドキュメント](#) の手順に従ってください。

パブリック VIF を作成したら、ピアリング状態が利用可能になるように、BGP 認証キーが BGP ピアの両端と一致することを確認する必要があります。

Note

パブリック VIF を使用してオンプレミス環境またはマルチクラウド環境 AWS から に接続すると、トラフィックが AWS パブリックプレフィックスからユーザーにルーティングされる方法が変わります。プレフィックスフィルター (ルートマップ) を使用して、受け入れられる Amazon プレフィックスが Hyperforce インフラストラクチャやその他の必要な AWS リソースに制限されていることを確認することをお勧めします。詳細については、ドキュメントの Direct Connect [「パブリック仮想インターフェイスプレフィックスアドバタイズルール」](#) を参照してください。

SEC を使用した Megaport MCR の設定

step-by-stepの手順については、Megaport ドキュメントの「Creating [MCR Connections to Salesforce Express Connect](#)」を参照してください。

Salesforce Hyperforce を設定する

企業ネットワークから Salesforce へのインバウンド接続を有効にするには、セキュリティ対策として Hyperforce へのインバウンドアクセスを設定する必要があります。[必要なドメインを許可する](#)には、Salesforce ドキュメントの「[Salesforce Classic で Salesforce コンソールのドメインを許可する](#)」の手順に従います。IP アドレスは使用しないでください。

料金

このガイドで説明するソリューションのコストに関する考慮事項は、スケール、消費帯域幅、選択した製品、ベンダー割引など、さまざまな要因によって異なります。さまざまなコンポーネントの料金を設定するときは、次の点を考慮してください。

- Direct Connect – 料金は、リージョン、ポートタイプ、容量、転送されたデータによって異なります。[AWS 料金見積りツール](#) を使用してコストを見積もります。
- への Megaport ホスト接続 AWS – 料金は製品の使用状況と容量によって異なります。Megaport Port、MCRは [Megaport から直接](#)入手することもMVE、を通じて調達することもできます[AWS Marketplace](#)。
- Megaport SEC – これは [Megaport](#) から直接入手できます。
- Salesforce Hyperforce – これは [Salesforce](#) から直接使用できます。

リソース

AWS ドキュメント

- [Direct Connect](#)
- [Direct Connect ユーザーガイド](#)

Megaport ドキュメント

- [ポートの作成](#)
- [AWS ホスト接続の設定と維持](#)
- [接続の概要](#)
- [MCR の概要](#)
- [MVE の紹介](#)
- [Salesforce Express Connect への接続](#)

Salesforce ドキュメント

- [Hyperforce の紹介 – 一般的な情報とよくある質問](#)
- [Salesforce Classic で Salesforce コンソールのドメインを許可する](#)
- [必要なドメインを許可する](#)

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新について通知を受け取る場合は、[RSSフィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
初版発行	—	2024 年 8 月 30 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。